

25. 10. 31

佐倉市

教育センターだより Vol.31

平成25年10月31日発行／佐倉市教育センター／TEL. 043(486) 2400 http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/13-6-0-0_6.html



実りの秋を迎えて

佐倉市教育センター所長 林 輝 彦

記録に残るような暑い夏が終りを告げ、さわやかな秋風の吹く毎日となりました。幼稚園や学校では秋にふさわしい行事が続き、園や学校生活に彩りを添えていることだと思います。また春に蒔いた種が実を結ぶ時期を迎えて、慌ただしくも充実した日々をお過ごしのことと存じます。

この時期、学校を訪問させていただく機会が多いのですが、どの学校にお伺いしても美しい花々が咲き誇る園・校庭、温かな教職員の応対や工夫された授業が多く出会います。特に生徒指導の機能を生かした「わかる授業」づくりに取り組んでいただいている学校が多いと感じています。また学力の向上に向けて、授業の始めに復習を取り入れ基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得に努めている学校、家庭と連携し定期試験前に一定期間テレビやゲーム等の使用を控えて学習に集中する取り組みを行う学校や家庭学習の強化週間を定めて家庭学習の定着や充実を図る学校など様々な実践に感心させられるところです。

さて、今年度は全国学力・学習状況調査が4年ぶりに小学6年、中学3年全員が参加して実施されました。今回の調査結果では、記述に関する問題について課題が見られました。小学校では、目的や意図に応じて、複数の内容を関係付けながら自分の考えを書くことや理由を書くこと、中学校では、根拠を明確にして自分の考えを書くことや理由を説明することに課題が見られました。また、児童生徒の意識調査では4年前の調査と比較して、携帯・スマートフォンを所有する小中学生の割合や携帯ゲームを行う時間の割合が増加していました。一方では、読書が好きであると肯定的に回答した小中学生は全国に比べ約10ポイント高い傾向であることもわかりました。本市では調査結果を教育施策や指導方法改善に活かすだけでなく、市独自の個票を児童生徒の保護者に配付し児童生徒の学力向上に資するように取り組んでいます。各学校においては個票の作成や配付にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

教育センターでは児童生徒の学力向上や教職員の指導方法の改善のために佐倉市学習状況調査を実施しています。この調査の特長は、①小学1年～中学3年までの全員が調査の対象となること②中学校英語の学習状況を把握できること[平成26年度から理科（小学3年～中学3年の全員）も調査実施の予定]③各学校の経年変化を把握でき、取り組みの成果が見えること④結果をもとに各学校の課題と対策が提示できること⑤課題を補うための教材が作成されていること等があります。今年度末には新たに調査結果をもとにして授業改善に活用できる指導事例集を作成し各学校に配付する予定です。

また、今年度は、文部科学省の研究指定を受けて、インクルーシブ教育システムの構築を図るための研究を推進しています。インクルーシブ教育システムとは、「どの子どもも同じ場で学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加に向けて、その時点で最も適切な指導を提供できる多様で柔軟な教育を行う仕組み」のことです。佐倉市では研究を通して言語発達に課題のある児童への早期対応、及び教員の理解推進、担任間や学校間の有効な連携の在り方、家庭との有効な連携の在り方等を明らかにし、言語通級指導を受ける児童一人一人への支援の充実を図ります。研究の推進にあたり各学校の皆様にはご理解とご協力をお願いいたします。

平成26年1月28日（火）に佐倉市立美術館で教育センター報告会を開催します。指導主事等が取り組んできた研究・実践の一端を発表させていただきますので皆様のご出席を心よりお待ち申し上げます。なお、詳細は、後日改めてご案内させていただきます。

夏の研修講座から

今年の夏も、教育センター主催で行った多くの研修講座で先生方が研鑽を積まれましたので、研修の様子についてご報告いたします。

教育相談基礎講座

教育相談の理論と技法の習得や児童生徒の持つ様々な問題解決に向けた指導力の育成を図るために、開講しています。教育相談の視点から先生方が現在抱えている課題の解決や指導力の向上を目指し、今年度はのべ31名の先生方が受講されました。子どもたちを「受容すること」「理解を深めること」「傾聴すること」など、生徒理解の基本を学ぶことができたという感想が多く寄せられました。

講座内容

- 「教育相談の意義」 滝本信行 先生
- 「ミニカウンセリングの理論と実践」 杉本 勉 先生
- 「発達障害の理解と対応」 比留間信夫 先生
- 「構成的グループエンカウンターの理論と実践」 山本昌弘 先生
- 「問題行動の理解と対応」 相蘇重晴 先生
- 「不登校児童生徒の理解と対応」 三星典子指導主事
- 「インシデントプロセスによる事例研究」 根本栄治 先生



《演習から深める研修講座の1コマ》

特別支援教育支援員研修会

第2回目の研修会を7月19日（金）に中央公民館で開催しました。

特別支援教育のニーズが増す中で、支援を必要とする様々な子どもたちへの教育効果を高めるために、特別支援教育支援員が果たす役割は非常に大きく、資質向上は大きな課題となっ

ています。第2回目の研修会では、事例検討を通じた研修を行いました。

支援員として子どもの立場になり、真剣に改善策を考え、積極的に意見を出し合う姿がありました。

各校においては、特別支援教育支援員が、生き生きと子どもにかかわることができるように、その活動をご覧いただき、子どもへの手厚い指導につながるように、日頃からの連携をお願いします。



佐倉市特別支援学級担当者研修会

この夏は、「支援の必要な子どもの自立を考える」を研修テーマにしました。佐倉市役所でチャレンジドオフィスを担当されている総務課の根本一也様、千葉県立印旛特別支援学校さくら分校主任の諸岡 優先生のお二人を講師にお迎えしました。

「働く」ということ、「自立する」ということのために、何が必要になるのか、今の発達段階で何ができるのか・・・などについて、参加した先生方一人一人が考えを深めました。

お二人の講師のお話から「子どもたちの自立に必要なこと」

- ・基本的生活習慣の確立（あいさつ、返事、言葉づかい、身だしなみ、衛生面）
- ・自己肯定感を育てる。（褒められる、喜ばれる、感謝されるなどの満足感）
- ・家族との関わり（食事を一緒にする、叱られている、家族の仲が良い、居場所がある）
- ・役割を果たすこと、働くことに意欲がある。
- ・自己決定する力がある。
- ・労働を厭わない健康と体力がある。

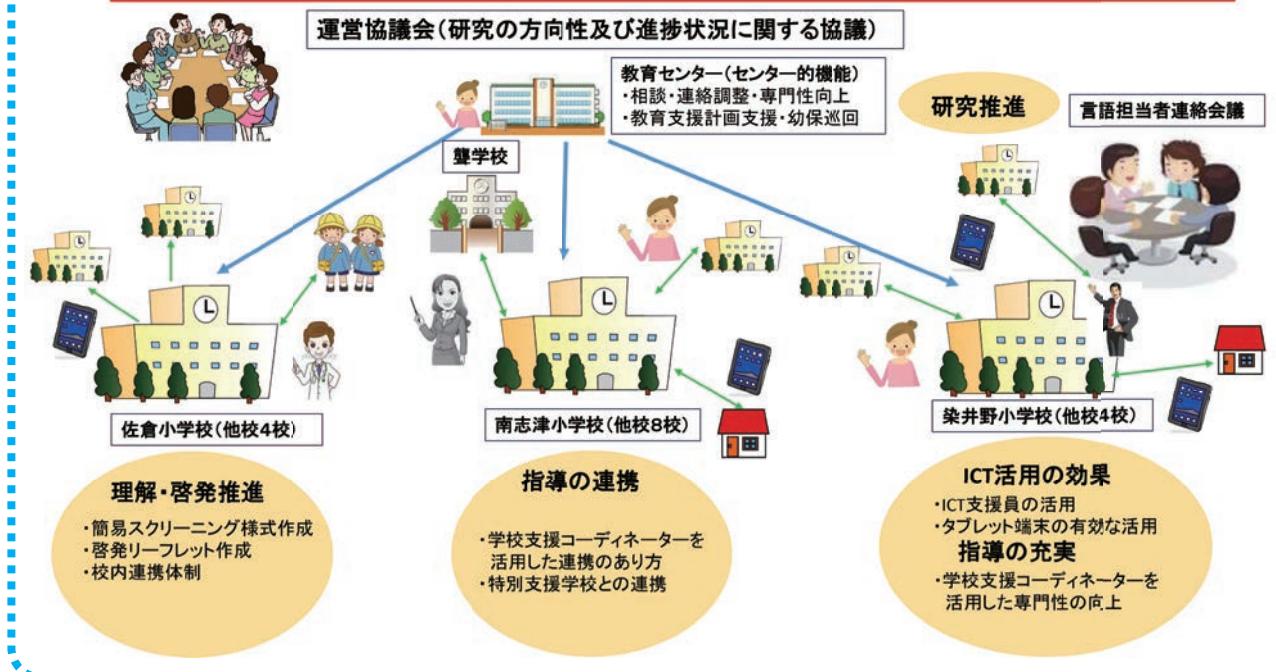


インクルーシブ教育

インクルーシブ教育とは、みんなが同じ場で学ぶことを目指しつつ、支援が必要な子どもにとって、今最も必要な指導を提供することのできる柔軟な仕組みを構築することです。

佐倉市では、文部科学省から、インクルーシブ教育システム構築モデル事業の研究指定を受け、以下の構想で言語教育の充実を目指します。ご理解とご協力をお願いいたします。

佐倉市スクールクラスター（域内の教育資源の組合せ）を活用したインクルーシブ教育システム研究構想図



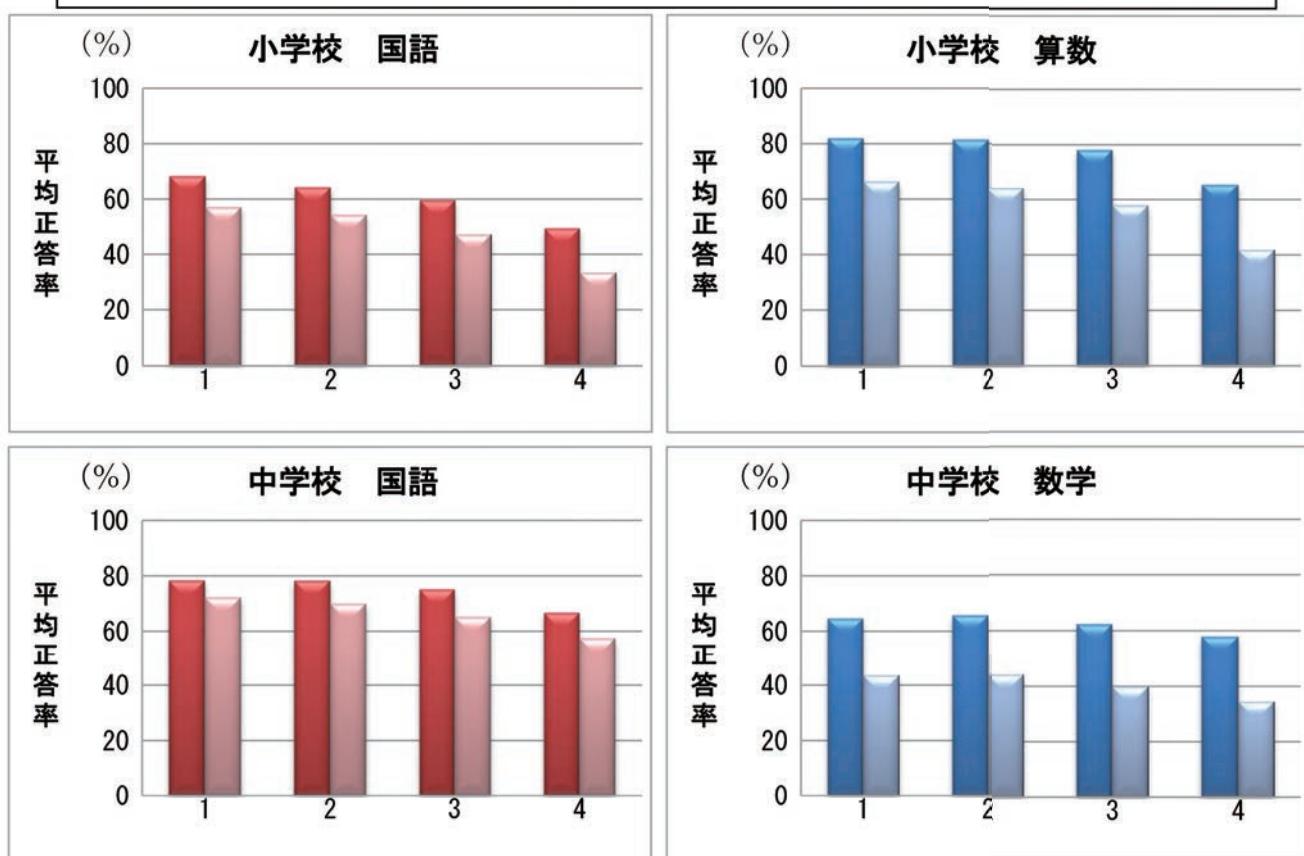
平成25年度全国学力・学習状況調査

—児童生徒意識調査から見えてきたこと—

【市内の児童生徒の授業に関する意識調査から】

①授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている児童の割合は62.5%，生徒の割合は55.5%でした。資料の活用頻度で正答率を見てみると

1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない

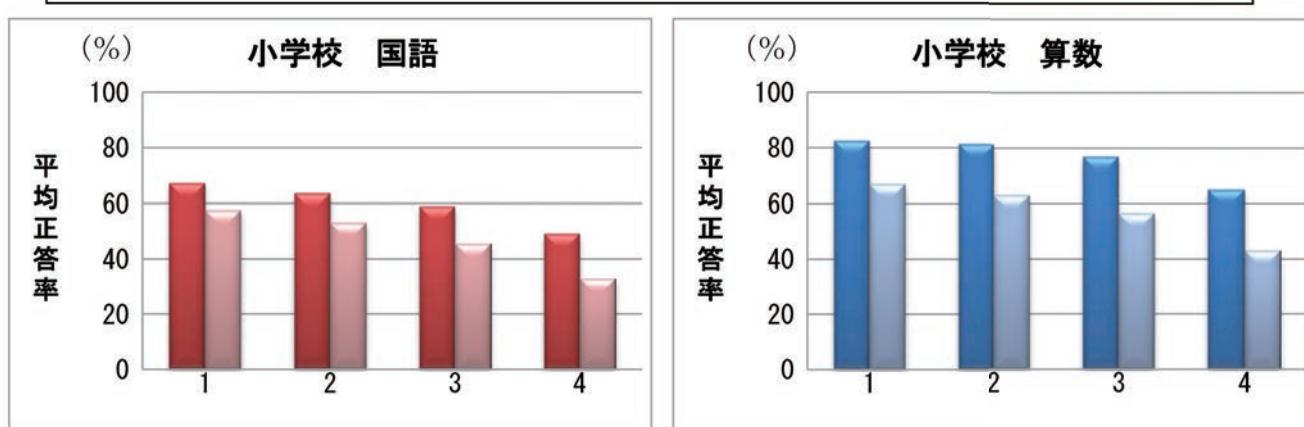


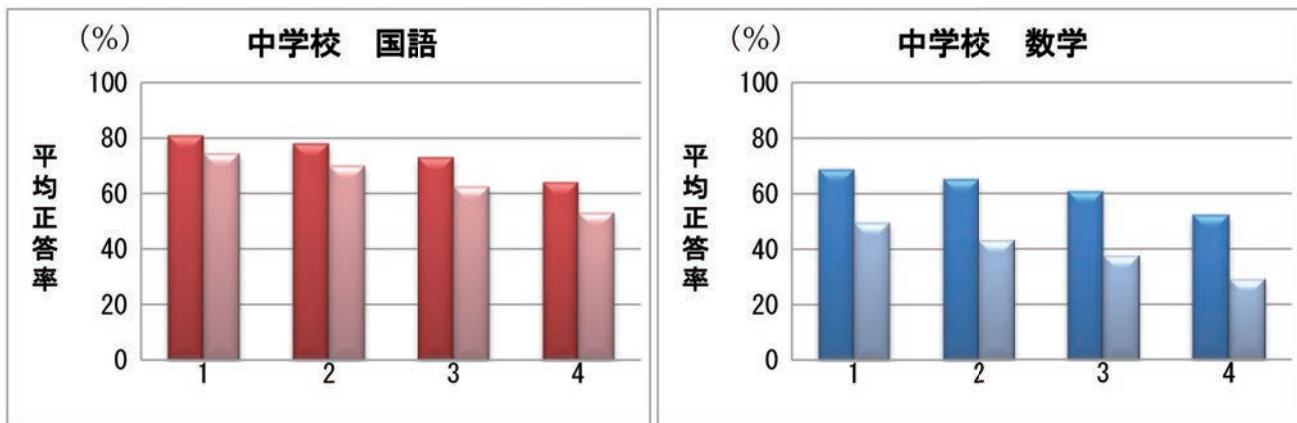
授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている児童生徒ほど正答率が高いことがわかります。

②授業で自分の考えを書くとき、考え方の理由がわかるように気を付けて書いている児童の割合は69.2%，生徒の割合は63.5%でした。

考え方の理由が分かるように気を付けているかどうかによって、正答率はどうであるかを見ると

1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない





授業で自分の考えを書くとき、考え方の理由がわかるように気を付けて書いている児童生徒ほど、正答率が高いことがわかります。

以上の結果からも、目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりすることや、考え方の理由がわかるように気を付けて自分の考えを書くことが、児童生徒の学びに必要であることがわかりました。そこで、資料を読み取り、根拠をもとに自分の考えを持つことができるようにするための指導として、新聞を活用した手立てを紹介します。

新聞を活用する

学校などで新聞を教材として活用することをNIE (Newspaper in Education = 「エヌ・アイ・イー」)といいます。NIEは「新聞をつくる」・「新聞を活用する」・「新聞の機能を知る」という3つの要素がありますが、ここでは「新聞を活用する」の一例です。まず、左記のようなワークシートの台紙を作成します。次に、台紙に記事を貼ります。

ここに新聞記事を貼ります。

※教材として、小学生新聞や若い世代が投稿したコラムなど、児童生徒の実態を考慮し、読ませたい記事を選んでください。

資料から自分の考えを書く	<input type="text"/>	年 級 名前	<input type="text"/>
<ここに新聞記事を貼る>			
【新聞記事例】			
○朝日新聞（土曜日面）若い世代（小学生～高校生の投稿コラム）			
○朝日小学生新聞 天声人語 等			
1 この記事の中から <u>事実</u> を書き出しましょう。			
<hr/> <hr/> <hr/>			
2 読こう者や書いた人の <u>意見や感想</u> だと思うところを書きましょう。			
<hr/> <hr/> <hr/>			
3 この記事について <u>自分の意見や感想</u> を書きましょう。			
<hr/> <hr/> <hr/>			
4 この記事に見出しをつけてみましょう。			
<hr/>			

台紙に新しい記事を貼れば、何回も繰り返しできます。

<学習の流れ>

- ①新聞記事を読む。
- ②記事を事実と筆者の意見や感想に分ける。
- ③記事について自分の意見や感想を書く。
- ④記事について自分で考えた見出しを書く。

初回は、児童生徒に取り組ませ方を十分理解させます。児童生徒が慣れてきたら5分～10分程度の短時間で行うようにします。家庭学習の課題にして取り組ませても良いです。ドリル的に繰り返し行うことで、事実と意見を分け、事実をもとに自分の意見や感想を書くことに慣れさせます。記事に対する意見を記述する活動は、学習指導要領が重視する論述・リポート等の言語活動であり、思考力、判断力、表現力等の育成につながります。教育センターでは、学力向上プランの取組の1つとして、紹介しています。

※新聞を活用した例は、国立教育政策研究所教育課程研究センター「授業アイデア例」にもあります。全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえて、授業を改善する際の参考になることが例示されています。参考にしてみてはいかがでしょうか。



“さくら”学びの窓

平成 25 年度 市内公開研究会実施校一覧

今年度も、市内の多くの学校で公開研究会が行われます。このセンターだよりがお手元に届く前に研究会が終了している学校もありますが、日程と研究内容をお知らせいたします。研究校におかれましては、授業等を通して研究の成果を広めていただき、参観された先生方におかれましては、その研究の成果を各学校に持ち帰り、広めていただければ幸いです。研究の成果を市内の多くの学校で共有できるよう公開研究会への参加をお願いいたします。

月
日
()
日直

【佐倉中学校】

10月25日（金）

- 確かな知識と技術を身につけ、社会の変化に対応し、生活に生かす力を育む学習指導の在り方
技術・家庭科

【染井野小学校】

11月8日（金）

- 「今こそ 探究の扉が開くとき！」～子どもたちが没頭する生活科・総合的な学習の時間をめざして～
生活科・総合的な学習の時間

【間野台小学校】

11月21日（木）

- 思考し表現できる子どもを育てる指導の工夫～算数科の言語活動を通して～
算数科

【臼井小学校】

11月26日（火）

- 問題解決の見通しを持ち、互いに学び合う中で育てる活用力～算数科（数と計算領域）を通して～
算数科

【寺崎小学校】

11月28日（木）

- 思考し表現する力を育てる算数科指導の在り方～学び合いを通して主体的に課題解決する児童の育成～
算数科

【和田小学校】

11月29日（金）

- 地域に誇りをもち、「生きる力」を育むための生活科・総合的な学習の時間～地域の教育力を生かした探究的な学習指導の在り方～
生活科・総合的な学習の時間

【根郷小学校】

平成26年1月21日（火）

- 自ら社会とかかわり、自分の考えを表現する児童の育成～仲間とともに学び合う活動を通して～
生活科・社会科

編集後記

秋も深まり、各学校において、充実した教育活動がなされていることだと思います。これまで研鑽してきた成果が実を結び、佐倉の教育力が向上するよう、教育センターも各学校の支援にあたってまいります。そのひとつに、教育センターでは、公開研究会の指導案や研究紀要等を保管しております。閲覧・貸出しも行っていますので、ぜひご活用ください。